



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第40回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 応援ブラスバンドが音量を調整

今回の選抜大会で、相手チームが守備タイム中は応援席のブラスバンドがボリュームを下げて演奏していたと聞きました。

二校の応援席で同じことがあり好感の声を聞きました。一校は何年か前から、もう一校は大会前に打ち合わせして臨んだそうです。一般にはタイム中ともなると、さらに音量を増して優勢を鼓舞するような雰囲気さえあります。大切なミーティング・タイムを乱すことなく、見守る心意気は大切なスポーツマンシップでしょう。「盛り上げれば何でもOK」ではなく、相手を尊ぶマナーを共有している応援席は頼もしい限りです。応援にもそれぞれのスタイルがあります。忘れてはならないのは、どんな時も、グラウンドとスタンドが各々のスポーツマンシップを爽やかに「楽しむこと」、それが「プレイ」の原点です。

ルール編 捕球後、ベンチに足を踏み入れた場合の処置

無死走者一塁、ファウルフライが一塁側に飛び、捕手が捕球後にベンチに足を踏み入れました。その処置は?

学校のグラウンド等ではボールデッド・ラインを独自に引き、その白線を超えれば試合停止とし、安全進塁の処置をする場合があります。公式の球場では、ベンチ前にも黄色のラインでボールデッドとなる境界が明示されています。

捕手が捕球後にベンチ前のラインを跨(また)いだことで、ボールデッドになるか否かの判断です。この場合、捕手は片足を踏み入れた状態で、次のプレイに移ることが十分可能です。規則を確認しましょう。

規則5・10 審判員がタイムを宣告すれば、ボールデッドとなる。次の場合、球審はタイムを宣告しなければならない。
(f) 野手が飛球を捕えた後、ベンチまたはスタンド内に倒れ込んだり、ロープを超えて観衆内(観衆が競技場内まで入っているとき)に倒れ込んだ場合。走者に関しては7・04(c)の規定が適用される。

野手が捕球後ベンチに踏み込んで、倒れ込まなかったときは、ボールインプレイであるから、各走者はアウトを賭(と)して進塁することができる。

倒れ込んだ場合は、プレイ継続が困難なためボールデッドとなり、次の規定によって走者には一個の安全進塁権が与えられます。

7・04(c) 野手が飛球を捕えた後、ベンチまたはスタンド内に倒れ込んだり、ロープを超えて観衆内(観衆が競技場内まで入っているとき)に倒れ込んだ場合。

【原注】野手が正規の捕球をした後、スタンド、観衆、ダッグアウト、またはその他ボールデッドの個所に倒れ込んだり、あるいは捕球した後ダッグアウトの中で倒れた場合、ボールデッドとなり、各走者は野手が倒れ込んだときの占有塁から一個の進塁が許される。

なお、上記でも走者が正しく捕球後のリタッチを果たしていない場合には、アピールがあればアウトが宣告されます。

